

## 第2回「国際海上コンテナの陸上運送の安全確保のための東北地方連絡会議」議事概要

### 1. 日時

平成31年1月31日(木) 13:30～15:30

### 2. 場所

東北運輸局  
仙台第四合同庁舎 2階大会議室

### 3. 出席者

別紙1のとおり

### 4. 主な議題

- (1) 「第8回国際海上コンテナの陸上運送に係る安全対策会議」(H30.3.26 実施)概要
- (2) 国際海上コンテナの陸上における安全輸送マニュアルの改訂について
- (3) 安全対策に関する取り組みについて
- (4) 仙台塩釜港(仙台港区)の現状と取り組みについて
- (5) その他(出席者から提案事項等)

### 5. 議事概要

#### (1) 「第8回国際海上コンテナの陸上運送に係る安全対策会議」(H30.3.26 実施)概要について

○自動車局より上記会議についての説明がされた。会議の主な議題としては、国際海上コンテナの横転事故等の発生状況、平成29年度の活動報告、国際海上コンテナの陸上輸送の安全確保に係るアンケート調査結果の報告、国際海上コンテナの陸上における安全輸送マニュアル改訂案の4点。発生状況については、平成30年の速報値も交えて説明があり、概ね年10件くらいの発生傾向となっていること、平成27年以降は死者数、重傷者数はゼロであることの報告があった。アンケート調査はフレキシタンクを用いた液体輸送に係る実態と荷主に対するガイドライン周知状況について行われ、その結果が報告された。

#### (2) 国際海上コンテナの陸上における安全輸送マニュアルの改訂について

○自動車局より平成30年4月に実施された上記マニュアルの改訂についての説明がされた。主な改訂点はフレキシタンクの取り扱いについて記載したこと。改訂の背景としては国際海上コンテナによる液体輸送にフレキシタンクが広く使用されている中で、平成26年8月にフレキシタンクから米油が漏洩し、その影響とみられる事故が多数発生したこと、また平成29年6月に実施したアンケート調査の結果、235件の回答の内、フレキシタンクから漏洩した事案が5件確認されたことがあげられる。については現状のマニュアルにフレキシタンクに係る記載が無いことから、これらを踏まえた改訂がなされた。

#### (3) 安全対策に関する取り組みについて

○事務局より昨年実施の本会議において質問があった東北管内指定港湾における重量計の設置状況について報告があった。また、改訂されたマニュアルの周知状況、国際海上コンテナの事故惹起者への対応について報告があった。

#### (4) 仙台塩釜港(仙台港区)の現状と取り組みについて

○宮城県土木部港湾課より仙台塩釜港の拡張改修工事についての説明がされた。前段として塩釜港のコンテナ貨物取扱量が上昇を続けており、加えて、コンテナ輸送の定期航路の本数が増えていることから、コンテナターミナルでは荷さばき地が狭隘化し、コンテナ船の滞船も発生するという問題が発生している現状について説明があった。これら問題点の解消のため、コンテナターミナルの機能強化を計画している。主な内容はガントリークレーンの増設、トランスファーポイントの増設、トラックゲートの増設、岸壁の延長があげられる。平成 35 年度に事業完了予定。

#### (5) その他

質問あり(質疑内容については別紙2のとおり)

## 第2回「国際海上コンテナの陸上運送の安全確保のための東北地方連絡会議」出席者名簿

(敬称略)

## (関係業界)

菅原 秀徳	一般社団法人東北経済連合会 交流政策部長	【欠席】
阿部 大輔	仙台商工会議所 中小企業支援部 経営支援グループ係長	
野田 富久	東北海運貨物取扱業会 専務理事／東北港運協会 専務理事	
簾内 茂信	東北倉庫協会連合会 事務局長	
長南 淳	東北トラック協会連合会 常務理事	
徳永 政男	公益社団法人宮城県トラック協会 会員 (所属:塩竈港運株式会社 代表取締役社長)	
長南 安典	全日本港湾労働組合 東北地方本部 塩竈支部執行委員長	

## (行政機関等)

佐藤 徳弥	宮城県警察本部 交通部交通企画課 課長補佐	
中村 一洋	宮城県 土木部港湾課 主幹	
渡邊 守章	経済産業省 東北経済産業局 産業部 商業・流通サービス産業課長	
山腰 俊博	国土交通省 自動車局 安全政策課長	【欠席】
川村 和久	国土交通省 自動車局 安全政策課 安全監理第一係長	
伊藤 英和	国土交通省 東北地方整備局 道路部 交通対策課 課長補佐	
渋谷 賢治	国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室長	
澤村 和則	国土交通省 東北運輸局 総務部 安全防災・危機管理調整官	
藤沢 義人	国土交通省 東北運輸局 交通政策部長	
木村 和博	国土交通省 東北運輸局 自動車交通部長	
堀江 暢俊	国土交通省 東北運輸局 自動車技術安全部長	
畠山 博文	国土交通省 東北運輸局 海事振興部長	
清野 和也	国土交通省 東北運輸局 宮城運輸支局長	

## 第2回「国際海上コンテナの陸上運送の安全確保のための東北地方連絡会議」質疑応答概要

## (1) 質問

Q1:フレキシタンクは使用後に廃棄と聞いたが、一回もしくは複数回使えるものと聞いている。その辺についてどうなっているのか。

A1:(自動車局)安全政策課で調査した際には、最近のフレキシタンクはほとんど一回で廃棄するものと聞いている。よってマニュアルにはその旨(使用済みのものは廃棄する)記載している。調査の際は、複数回使えるものは考えにくい、とのことだった。しかし今後、色々な製品が出てくることも想定されるので、その際はそれに応じた対応が必要であると認識している。

Q2:組合では偏荷重機能付きの重量計の導入を要請している。その理由として、コンテナ内の偏荷重が前荷になった場合、トラクタの第五輪荷重が15t位になり、9.5tや11tに対してオーバーとなっていることを運転者が知らずに乗務し、警察に捕まってしまうことがあるためである。偏荷重機能付きの重量計を是非とも検討して頂きたい。

A2:(自動車技術安全部)偏荷重機能が有効的であるという認識はしている。しかしながら、偏荷重機能付きの重量計の導入にはコストの問題があるため、関係者との検討が必要であると認識している。また、偏荷重積載の防止についてはマニュアルを参考にいただければと思う。

Q3:海コンの運転者は、荷物の待ち時間として、仙台港であれば2~3時間、京浜の方では5~6時間ほど車内に待機している。このことから運転者がエコノミー症候群を発症し、死亡したケースもある。こういった事例を是非周知していただければと思う。

A3:(自動車技術安全部)東北管内ではエコノミー症候群による事例は確認されていないが、近年、運転者の健康起因による事故・死亡が増加傾向にあることから、運転者の健康管理には当局としても注視しているところである。各種研修等の機会に健康管理について周知していくこととしたい。